

【表紙】

【提出書類】 有価証券届出書の訂正届出書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年 1月20日

【発行者名】 三井住友アセットマネジメント株式会社

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 前田 良治

【本店の所在の場所】 東京都港区愛宕二丁目 5番 1号

【事務連絡者氏名】 隠地 保夫

【電話番号】 03-5405-0735

**【届出の対象とした募集内国投資信託受益証 三井住友・株式アナライザー・オープン
券に係るファンドの名称】**

**【届出の対象とした募集内国投資信託受益証 5,000億円を上限とします。
券の金額】**

【縦覧に供する場所】 該当ありません。

・【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

平成23年7月21日付をもって提出しました「三井住友・株式アナライザー・オープン」の有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）について、平成24年1月20日に有価証券報告書を提出したことに伴う関係情報の更新、その他訂正すべき事項がありますので、本訂正届出書により訂正を行うものです。

・【訂正の内容】

<訂正前>および<訂正後>に記載している下線部_____は訂正部分を示します。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(3)【ファンドの仕組み】

<訂正前>

(略)

□ 委託会社の概況

(イ) 資本金の額

2,000百万円（平成23年5月31日現在）

(略)

(八) 大株主の状況

（平成23年5月31日現在）

名称	住所	所有 株式数	比率 (%)
住友生命保険相互会社	大阪府大阪市中央区城見一丁目4番35号	7,056	40.0
三井住友海上火災保険株式会社	東京都中央区新川二丁目27番2号	4,851	27.5
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	4,851	27.5
三井生命保険株式会社	東京都千代田区大手町二丁目1番1号	882	5.0

<訂正後>

(略)

□ 委託会社の概況

(イ) 資本金の額

2,000百万円（平成23年11月30日現在）

(略)

(八) 大株主の状況

（平成23年11月30日現在）

名称	住所	所有 株式数	比率 (%)
住友生命保険相互会社	大阪府大阪市中央区城見一丁目4番35号	7,056	40.0
三井住友海上火災保険株式会社	東京都中央区新川二丁目27番2号	4,851	27.5
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	4,851	27.5
三井生命保険株式会社	東京都千代田区大手町二丁目1番1号	882	5.0

2【投資方針】

(3)【運用体制】

<訂正前>

イ 運用体制

(略)

リスク管理部は10名程度、運用企画部は8名程度で構成されています。

(略)

<訂正後>

イ 運用体制

(略)

リスク管理部は7名程度、運用企画部は10名程度で構成されています。

(略)

(4)【分配方針】

<訂正前>

(略)

□ 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

(略)

<訂正後>

(略)

□ 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

(略)

3【投資リスク】

<訂正前>

イ ファンドのもつリスクの特性

当ファンドは、主に内外の株式を投資対象としています。当ファンドの基準価額は、組み入れた株式の値動き、為替相場の変動等の影響により上下しますので、これにより投資元本を割り込むことがあります。また、組み入れた株式の発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込むことがあります。

運用の結果としてファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。したがって、当ファンドは金融機関の預金とは異なり、元金が保証されているものではなく、一定の投資成果を保証するものではありません。また、当ファンドは、預金や保険契約と異なり、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。登録金融機関は、投資者保護基金には加入しておりません。

(略)

(へ) 分配金にかかる留意点

ファンドは、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて分配を行う場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。

受益者の個別元本(追加型投資信託における受益者毎の信託時の受益権の価額)の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。

分配金はファンドの信託財産から支払われます。そのため、分配金支払い後の純資産総額はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中に発生した運用収益を超えて分配を行った場合、当該決算日の基準価額はその前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。

(略)

<訂正後>

イ ファンドのもつリスクの特性

当ファンドは、主に内外の株式を投資対象としています。当ファンドの基準価額は、組み入れた株式の値動き、当該発行者の経営・財務状況の変化、為替相場の変動等の影響により上下します。基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

運用の結果としてファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。したがって、当ファンドは預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく、一定の投資成果を保証するものではありません。また、当ファンドは、預金や保険契約と異なり、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。登録金融機関は、投資者保護基金には加入しておりません。

(略)

(へ) 収益分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。

(略)

4【手数料等及び税金】

(5)【課税上の取扱い】

<訂正前>

(略)

ニ 個人、法人別の課税の取扱いについて

(イ) 個人の受益者に対する課税

・ 収益分配時

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、平成23年12月31日までは10%（所得税7%および地方税3%）、平成24年1月1日以降は20%（所得税15%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行われ、申告不要制度が適用されます。確定申告による総合課税または申告分離課税の選択も可能です。

・ 一部解約時および償還時

一部解約時および償還時の譲渡益については、平成23年12月31日までは10%（所得税7%および地方税3%）、平成24年1月1日以降は20%（所得税15%および地方税5%）の税率による申告分離課税が適用されます。ただし、特定口座（源泉徴収選択口座）の利用も可能です。

なお、一部解約時および償還時の損失については、確定申告により、収益分配金、上場株式等にかかる譲渡益との通算が可能です。

(ロ) 法人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については、平成23年12月31日までは7%（所得税のみ）、平成24年1月1日以降は15%（所得税のみ）の税率で源泉徴収されます。

(略)

上記「(5)課税上の取扱い」ほか税制に関する本書の記載は、平成23年5月末現在の情報をもとに作成しています。税法の改正等により、変更されることがあります。

課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家に確認されることをお勧めいたします。

<訂正後>

(略)

ニ 個人、法人別の課税の取扱いについて

(イ) 個人の受益者に対する課税

・ 収益分配時

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、平成25年12月31日までは10%（所得税7%および地方税3%）、平成26年1月1日以降は20%（所得税15%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行われ、申告不要制度が適用されます。確定申告による総合課税または申告分離課税の選択も可能です。

・ 一部解約時および償還時

一部解約時および償還時の譲渡益については、平成25年12月31日までは10%（所得税7%および地方税3%）、平成26年1月1日以降は20%（所得税15%および地方税5%）の税率による申告分離課税が適用されます。ただし、特定口座（源泉徴収選択口座）の利用も可能です。

なお、一部解約時および償還時の損失については、確定申告により、収益分配金、上場株式等にかかる譲渡益との通算が可能です。

(ロ) 法人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については、平成25年12月31日までは7%（所得税のみ）、平成26年1月1日以降は15%（所得税のみ）の税率で源泉徴収されます。

(略)

上記「(5)課税上の取扱い」ほか税制に関する本書の記載は、平成23年11月末現在の情報をもとに作成しています。税法の改正等により、変更されることがあります。

課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家に確認されることをお勧めいたします。

5【運用状況】

原届出書「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 5 運用状況」の記載は、下記の通り更新されます。

(1)【投資状況】

平成23年11月30日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
株式	日本	2,883,253,520	97.32
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		79,474,816	2.68
合計(純資産総額)		2,962,728,336	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。以下同じ。

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

イ 主要投資銘柄（上位30銘柄）

平成23年11月30日現在

国/地域	種類	銘柄名/業種	数量 (株)	帳簿価額 単価/金額 (円)	評価額 単価/金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	株式	三菱UFJフィナンシャル・グループ 〔銀行業〕	276,400	338.00 93,423,200	328.00 90,659,200	3.06
日本	株式	トヨタ自動車 〔輸送用機器〕	30,700	2,580.00 79,206,000	2,509.00 77,026,300	2.60
日本	株式	本田技研工業 〔輸送用機器〕	28,700	2,355.00 67,588,500	2,389.00 68,564,300	2.31
日本	株式	大阪証券取引所 〔その他金融業〕	155	370,000.00 57,350,000	439,000.00 68,045,000	2.30
日本	株式	日本電信電話 〔情報・通信業〕	17,500	3,825.00 66,937,500	3,775.00 66,062,500	2.23
日本	株式	キヤノン 〔電気機器〕	18,600	3,555.00 66,123,000	3,420.00 63,612,000	2.15
日本	株式	日立製作所 〔電気機器〕	144,000	416.41 59,963,939	423.00 60,912,000	2.06
日本	株式	ヤクルト本社 〔食料品〕	25,700	2,258.00 58,030,600	2,360.00 60,652,000	2.05
日本	株式	積水化学工業 〔化学〕	106,000	650.00 68,900,000	570.00 60,420,000	2.04
日本	株式	富士フイルムホールディングス 〔化学〕	32,900	1,890.06 62,183,234	1,826.00 60,075,400	2.03
日本	株式	三井住友フィナンシャルグループ 〔銀行業〕	28,600	2,164.00 61,890,400	2,089.00 59,745,400	2.02
日本	株式	クボタ 〔機械〕	87,000	638.19 55,522,714	685.00 59,595,000	2.01
日本	株式	村田製作所 〔電気機器〕	13,100	4,607.76 60,361,770	4,465.00 58,491,500	1.97
日本	株式	三井不動産 〔不動産業〕	48,000	1,317.00 63,216,000	1,218.00 58,464,000	1.97
日本	株式	三菱地所 〔不動産業〕	46,000	1,340.00 61,640,000	1,262.00 58,052,000	1.96

日本	株式	ヤマトホールディングス 〔陸運業〕	45,300	1,408.00 63,782,400	1,222.00 55,356,600	1.87
日本	株式	ユー・エス・エス 〔サービス業〕	8,310	6,570.00 54,596,700	6,660.00 55,344,600	1.87
日本	株式	エヌ・ティ・ティ・ドコモ 〔情報・通信業〕	369	137,200.00 50,626,800	135,000.00 49,815,000	1.68
日本	株式	国際石油開発帝石 〔鉱業〕	98	518,000.00 50,764,000	504,000.00 49,392,000	1.67
日本	株式	松井証券 〔証券、商品先物取引業〕	138,600	363.00 50,311,800	354.00 49,064,400	1.66
日本	株式	住友商事 〔卸売業〕	48,400	959.00 46,415,600	1,007.00 48,738,800	1.65
日本	株式	クラレ 〔化学〕	44,400	1,113.00 49,417,200	1,085.00 48,174,000	1.63
日本	株式	S M C 〔機械〕	3,800	12,400.00 47,120,000	12,520.00 47,576,000	1.61
日本	株式	ヤマダ電機 〔小売業〕	8,570	5,470.00 46,877,900	5,500.00 47,135,000	1.59
日本	株式	T D K 〔電気機器〕	12,300	2,967.00 36,494,100	3,825.00 47,047,500	1.59
日本	株式	京セラ 〔電気機器〕	6,800	7,150.00 48,620,000	6,760.00 45,968,000	1.55
日本	株式	信越化学工業 〔化学〕	12,000	3,935.12 47,221,526	3,805.00 45,660,000	1.54
日本	株式	三菱商事 〔卸売業〕	29,300	1,527.00 44,741,100	1,551.00 45,444,300	1.53
日本	株式	アステラス製薬 〔医薬品〕	15,200	2,884.00 43,836,800	2,938.00 44,657,600	1.51
日本	株式	富士電機 〔電気機器〕	200,000	223.04 44,609,821	223.00 44,600,000	1.51

□ 種類別・業種別の投資比率

平成23年11月30日現在

種類	業種	投資 比率 (%)	種類	業種	投資 比率 (%)
株式(国内)	鉱業	1.67	株式(国内)	電気・ガス業	1.00
	建設業	4.10		陸運業	2.91
	食料品	3.03		倉庫・運輸関連業	1.44
	繊維製品	0.76		情報・通信業	8.10
	化学	10.71		卸売業	3.18
	医薬品	1.51		小売業	3.79
	ゴム製品	1.38		銀行業	5.99
	ガラス・土石製品	0.91		証券、商品先物取引業	1.66
	非鉄金属	2.34		保険業	1.01
	機械	6.05		その他金融業	3.42
	電気機器	17.78		不動産業	3.93
	輸送用機器	5.92		サービス業	1.87

精密機器	0.81	合計	97.32
その他製品	2.04		

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

年月日	純資産総額 (円)	1万口当たりの 純資産額(円)
第9期(平成14年4月22日)(分配落)	17,875,939,193	5,156
第9期(平成14年4月22日)(分配付)	17,875,939,193	5,156
第10期(平成14年10月22日)(分配落)	13,277,541,368	3,906
第10期(平成14年10月22日)(分配付)	13,277,541,368	3,906
第11期(平成15年4月22日)(分配落)	11,718,769,337	3,656
第11期(平成15年4月22日)(分配付)	11,718,769,337	3,656
第12期(平成15年10月22日)(分配落)	15,163,684,742	5,022
第12期(平成15年10月22日)(分配付)	15,163,684,742	5,022
第13期(平成16年4月22日)(分配落)	15,259,062,045	5,387
第13期(平成16年4月22日)(分配付)	15,259,062,045	5,387
第14期(平成16年10月22日)(分配落)	12,783,914,578	4,786
第14期(平成16年10月22日)(分配付)	12,783,914,578	4,786
第15期(平成17年4月22日)(分配落)	11,717,493,334	4,853
第15期(平成17年4月22日)(分配付)	11,717,493,334	4,853
第16期(平成17年10月24日)(分配落)	11,571,240,619	5,649
第16期(平成17年10月24日)(分配付)	11,571,240,619	5,649
第17期(平成18年4月24日)(分配落)	13,622,565,367	7,117
第17期(平成18年4月24日)(分配付)	13,622,565,367	7,117
第18期(平成18年10月23日)(分配落)	12,200,486,513	6,688
第18期(平成18年10月23日)(分配付)	12,200,486,513	6,688
第19期(平成19年4月23日)(分配落)	11,364,413,345	7,001
第19期(平成19年4月23日)(分配付)	11,364,413,345	7,001
第20期(平成19年10月22日)(分配落)	9,059,746,263	6,984
第20期(平成19年10月22日)(分配付)	9,059,746,263	6,984
第21期(平成20年4月22日)(分配落)	7,178,227,867	5,774
第21期(平成20年4月22日)(分配付)	7,178,227,867	5,774
第22期(平成20年10月22日)(分配落)	4,763,097,893	4,066
第22期(平成20年10月22日)(分配付)	4,763,097,893	4,066
第23期(平成21年4月22日)(分配落)	4,211,437,090	3,728
第23期(平成21年4月22日)(分配付)	4,211,437,090	3,728
第24期(平成21年10月22日)(分配落)	4,467,667,910	4,213
第24期(平成21年10月22日)(分配付)	4,467,667,910	4,213
第25期(平成22年4月22日)(分配落)	4,438,509,699	4,534
第25期(平成22年4月22日)(分配付)	4,438,509,699	4,534
第26期(平成22年10月22日)(分配落)	3,651,480,070	4,001
第26期(平成22年10月22日)(分配付)	3,651,480,070	4,001
第27期(平成23年4月22日)(分配落)	3,510,410,341	4,098
第27期(平成23年4月22日)(分配付)	3,510,410,341	4,098

第28期（平成23年10月24日）（分配落）	3,083,430,196	3,824
第28期（平成23年10月24日）（分配付）	3,083,430,196	3,824
平成22年11月末日	3,705,300,802	4,128
平成22年12月末日	3,858,452,507	4,344
平成23年1月末日	3,886,338,307	4,427
平成23年2月末日	3,999,144,011	4,602
平成23年3月末日	3,599,054,428	4,184
平成23年4月末日	3,581,663,675	4,185
平成23年5月末日	3,509,800,858	4,136
平成23年6月末日	3,465,793,421	4,186
平成23年7月末日	3,414,883,486	4,154
平成23年8月末日	3,139,576,426	3,837
平成23年9月末日	3,102,625,567	3,822
平成23年10月末日	3,101,058,367	3,856
平成23年11月末日	2,962,728,336	3,719

【分配の推移】

計算期間	1万口当たり分配金（円）
第9期（平成13年10月23日～平成14年4月22日）	0
第10期（平成14年4月23日～平成14年10月22日）	0
第11期（平成14年10月23日～平成15年4月22日）	0
第12期（平成15年4月23日～平成15年10月22日）	0
第13期（平成15年10月23日～平成16年4月22日）	0
第14期（平成16年4月23日～平成16年10月22日）	0
第15期（平成16年10月23日～平成17年4月22日）	0
第16期（平成17年4月23日～平成17年10月24日）	0
第17期（平成17年10月25日～平成18年4月24日）	0
第18期（平成18年4月25日～平成18年10月23日）	0
第19期（平成18年10月24日～平成19年4月23日）	0
第20期（平成19年4月24日～平成19年10月22日）	0
第21期（平成19年10月23日～平成20年4月22日）	0
第22期（平成20年4月23日～平成20年10月22日）	0
第23期（平成20年10月23日～平成21年4月22日）	0
第24期（平成21年4月23日～平成21年10月22日）	0
第25期（平成21年10月23日～平成22年4月22日）	0
第26期（平成22年4月23日～平成22年10月22日）	0
第27期（平成22年10月23日～平成23年4月22日）	0
第28期（平成23年4月23日～平成23年10月24日）	0

【収益率の推移】

計算期間	収益率（％）
第9期	6.7
第10期	24.2
第11期	6.4
第12期	37.4
第13期	7.3
第14期	11.2
第15期	1.4
第16期	16.4
第17期	26.0
第18期	6.0
第19期	4.7
第20期	0.2
第21期	17.3
第22期	29.6
第23期	8.3
第24期	13.0
第25期	7.6
第26期	11.8
第27期	2.4
第28期	6.7

（注）収益率とは、計算期間末の分配基準価額から前期末分配基準価額を控除した額を前期末分配基準価額で除したものをいいます。

（４）【設定及び解約の実績】

計算期間	設定口数（口）	解約口数（口）
第9期	1,330,621,458	3,378,019,434
第10期	840,601,451	1,522,969,837
第11期	789,115,714	2,722,304,127
第12期	240,998,253	2,103,390,228
第13期	461,807,879	2,332,529,624
第14期	217,235,765	1,831,019,987
第15期	327,746,782	2,892,015,594
第16期	475,981,018	4,138,708,329
第17期	1,861,033,300	3,202,551,716
第18期	72,762,931	973,639,820
第19期	924,872,159	2,934,442,635
第20期	116,656,313	3,376,649,726
第21期	70,730,855	609,782,279
第22期	40,835,166	759,624,704
第23期	60,836,001	477,383,541
第24期	75,695,438	768,907,888
第25期	42,788,256	858,137,871
第26期	35,712,040	697,417,099
第27期	86,686,267	647,502,046

第28期	26,651,057	529,745,441
------	------------	-------------

(注) 本邦外における設定および解約の実績はありません。

〔参考情報〕

基準日2011年11月30日

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。
 ※委託会社ホームページにおいてもファンドの運用状況は適宜開示しています。

基準価額・純資産の推移



※ 基準価額は、1万口当たり、信託報酬控除後です。
 ※ 2000年12月29日以降においては、分配実績はありません。

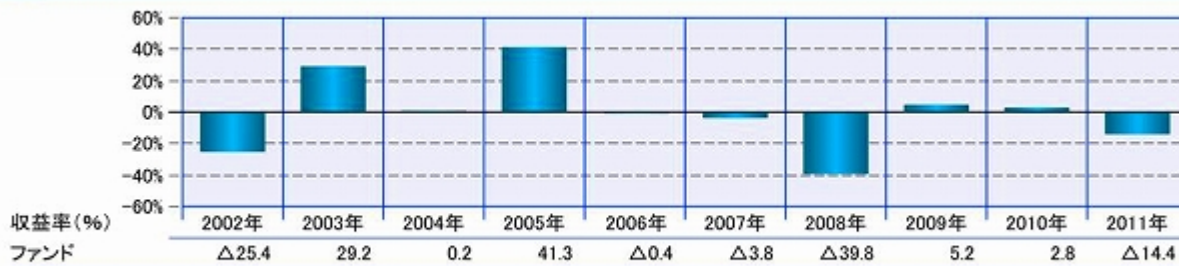
基準価額	3,719円
純資産総額	30億円

分配の推移

決算期	分配金
2011年10月	0円
2011年4月	0円
2010年10月	0円
2010年4月	0円
2009年10月	0円
設定来累計	6,320円

※ 分配金は1単位当たり、税引前です。
 ※ 直近5計算期間を記載しています。

年間収益率の推移（暦年ベース）



2011年のファンドの収益率は、年初から2011年11月30日までの騰落率を表示しています。
 ファンドにはベンチマークはありません。

第2【管理及び運営】

3【資産管理等の概要】

(5)【その他】

<訂正前>

(略)

□ 収益分配金、償還金の支払い

(イ) 収益分配金

- a . 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。分配対象額が少額の場合等には委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

(略)

<訂正後>

(略)

□ 収益分配金、償還金の支払い

(イ) 収益分配金

- a . 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。分配対象額が少額の場合等には委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

(略)

第3【ファンドの経理状況】

原届出書「第二部 ファンド情報 第3 ファンドの経理状況」の記載は、下記の通り更新されます。

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第28期（平成23年4月23日から平成23年10月24日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

【三井住友・株式会社アナライザー・オープン】

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第27期 (平成23年4月22日現在)	第28期 (平成23年10月24日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	250,061,351	138,736,250
株式	3,220,317,810	2,964,409,500
未収入金	48,030,161	26,984,175
未収配当金	34,661,895	30,117,416
未収利息	342	190
流動資産合計	3,553,071,559	3,160,247,531
資産合計		
	3,553,071,559	3,160,247,531
負債の部		
流動負債		
未払金	17,807,335	46,542,682
未払解約金	4,892,163	12,606,793
未払受託者報酬	1,982,313	1,754,520
未払委託者報酬	17,840,707	15,790,583
その他未払費用	138,700	122,757
流動負債合計	42,661,218	76,817,335
負債合計		
	42,661,218	76,817,335
純資産の部		
元本等		
元本	8,566,027,728	8,062,933,344
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	5,055,617,387	4,979,503,148
元本等合計	3,510,410,341	3,083,430,196
純資産合計		
	3,510,410,341	3,083,430,196
負債純資産合計		
	3,553,071,559	3,160,247,531

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第27期	第28期
	自 平成22年10月23日 至 平成23年4月22日	自 平成23年4月23日 至 平成23年10月24日
営業収益		
受取配当金	38,278,758	32,724,358
受取利息	42,554	54,962
有価証券売買等損益	81,895,862	240,690,594
その他収益	765	51,879
営業収益合計	120,217,939	207,859,395
営業費用		
受託者報酬	1,982,313	1,754,520
委託者報酬	17,840,707	15,790,583
その他費用	147,136	122,757
営業費用合計	19,970,156	17,667,860
営業利益又は営業損失（ ）	100,247,783	225,527,255
経常利益又は経常損失（ ）	100,247,783	225,527,255
当期純利益又は当期純損失（ ）	100,247,783	225,527,255
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	18,874,729	5,027,180
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	5,475,363,437	5,055,617,387
剰余金増加額又は欠損金減少額	388,394,933	312,655,456
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	388,394,933	312,655,456
剰余金減少額又は欠損金増加額	50,021,937	16,041,142
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	50,021,937	16,041,142
分配金	-	-
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	5,055,617,387	4,979,503,148

(3)【注記表】

(重要な会計方針の注記)

項目	第28期	
	自 平成23年4月23日 至 平成23年10月24日	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式（売買目的有価証券） 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、取引所もしくは店頭市場における最終相場（最終相場のないものについては、それに準じる価額）または金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。	
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金の計上基準 受取配当金は原則として、配当落ち日において、確定配当金額または予想配当金額を計上しております。	
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	計算期間の取扱い 当計算期間は当期末が休日のため、平成23年4月23日から平成23年10月24日までとなっております。	

(追加情報)

第28期	
自 平成23年4月23日 至 平成23年10月24日	
当計算期間の期首以後に行われる会計上の変更および過去の誤謬の訂正から、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号平成21年12月4日）および「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日）を適用しております。	

(貸借対照表に関する注記)

項目	第27期	第28期
	(平成23年4月22日現在)	(平成23年10月24日現在)
1. 受益権総数	当計算期間の末日における受益権の総数 8,566,027,728口	当計算期間の末日における受益権の総数 8,062,933,344口
2. 元本の欠損	「投資信託財産の計算に関する規則」第55条の6第10号に規定する額 5,055,617,387円	「投資信託財産の計算に関する規則」第55条の6第10号に規定する額 4,979,503,148円
3. 1単位当たり純資産額	0.4098円 (1万口 = 4,098円)	0.3824円 (1万口 = 3,824円)

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

項目	第27期	第28期
	自 平成22年10月23日 至 平成23年4月22日	自 平成23年4月23日 至 平成23年10月24日
分配金の計算過程	計算期間末における費用控除後の配当等収益（30,485,468円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（0円）、収益調整金（279,850,690円）、および分配準備積立金（328,781,185円）より、分配対象収益は639,117,343円（1万口当たり746.10円）であります。分配を行っておりません。	計算期間末における費用控除後の配当等収益（15,038,683円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（0円）、収益調整金（264,506,952円）、および分配準備積立金（337,080,412円）より、分配対象収益は616,626,047円（1万口当たり764.76円）であります。分配を行っておりません。

（金融商品に関する注記）

・金融商品の状況に関する事項

項目	第27期	第28期
	自 平成22年10月23日 至 平成23年4月22日	自 平成23年4月23日 至 平成23年10月24日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。	同左
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1) 金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、株式を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。当ファンドにおけるデリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2) 金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>	<p>(1) 金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 同左</p> <p>2) デリバティブ取引 同左</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2) 金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 同左</p>

<p>3. 金融商品に係るリスク管理体制</p>	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についてのチェックを行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかるチェックの結果については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する委員会をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。リスクを管理する部署では、各種リスクごとに定められた頻度で、測定項目が上下限值（リミットあるいは注意レベル）内に収まっているかどうかのモニタリングを行っております。上下限値を越えていることが発見された場合は、原則として速やかに修正を行うよう、リスク管理を行う部署から関連する運用グループに是正勧告あるいは報告が行われます。また、是正勧告あるいは報告を受けた関連運用グループでは、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。なお、リスク管理を行う部署は、上下限値に抵触した事実ならびにその後の対処結果あるいは関連運用グループの対処方針の決定に関し、必要に応じて、リスク管理を行う部署の担当役員、当該関連運用グループの担当役員およびリスク管理委員会へ報告する体制となっております。</p>	<p>同 左</p>
<p>4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明</p>	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には委託者としての忠実義務に基づき合理的理由をもって認める評価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。</p>	<p>同 左</p>

・金融商品の時価等に関する事項

項目	第27期 (平成23年4月22日現在)	第28期 (平成23年10月24日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券(株式) 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定(デリバティブ取引) デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。	(1) 有価証券(株式) 同左 (2) 派生商品評価勘定(デリバティブ取引) 同左 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

第27期(自平成22年10月23日至平成23年4月22日)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
株式	58,431,138円
合計	58,431,138円

第28期(自平成23年4月23日至平成23年10月24日)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
株式	186,701,821円
合計	186,701,821円

(デリバティブ取引に関する注記)

第27期(平成23年4月22日現在)

第27期末現在、デリバティブ取引は行っておりません。

第28期(平成23年10月24日現在)

第28期末現在、デリバティブ取引は行っておりません。

(関連当事者との取引に関する注記)

第27期(自平成22年10月23日至平成23年4月22日)

該当事項はありません。

第28期(自平成23年4月23日至平成23年10月24日)

該当事項はありません。

(その他の注記)

項目	第27期 (平成23年4月22日現在)	第28期 (平成23年10月24日現在)
期首元本額	9,126,843,507円	8,566,027,728円
期中追加設定元本額	86,686,267円	26,651,057円
期中一部解約元本額	647,502,046円	529,745,441円

(4)【附属明細表】

有価証券明細表

(a)株式

(単位：円)

銘柄	株数	評価額 単価	評価額 金額	備考
国際石油開発帝石	98	518,000	50,764,000	
大成建設	224,000	212	47,488,000	
矢作建設工業	30,000	396	11,880,000	
関電工	89,000	328	29,192,000	
協和エクシオ	49,000	708	34,692,000	
日揮	14,000	2,086	29,204,000	
ヤクルト本社	25,700	2,258	58,030,600	
不二製油	26,400	1,119	29,541,600	
東洋水産	18,000	2,058	37,044,000	
ホギメディカル	7,200	3,370	24,264,000	
クラレ	44,400	1,113	49,417,200	
日本曹達	44,000	349	15,356,000	
信越化学工業	8,500	4,025	34,212,500	
積水化学工業	106,000	650	68,900,000	
花王	40,400	2,142	86,536,800	
日本ペイント	56,000	576	32,256,000	
富士フイルムホールディングス	30,400	1,934	58,793,600	
アステラス製薬	21,600	2,884	62,294,400	
ブリヂストン	23,300	1,764	41,101,200	
旭硝子	20,000	728	14,560,000	
日本碍子	26,000	1,121	29,146,000	
住友電気工業	31,100	874	27,181,400	
S M C	3,800	12,400	47,120,000	
クボタ	50,000	625	31,250,000	
三菱重工業	88,000	322	28,336,000	
日立製作所	109,000	415	45,235,000	
三菱電機	56,000	729	40,824,000	
富士電機	139,000	218	30,302,000	
日本電産	4,500	6,160	27,720,000	
T D K	15,800	2,967	46,878,600	
キーエンス	1,600	20,590	32,944,000	
ファナック	1,200	12,540	15,048,000	
京セラ	6,800	7,150	48,620,000	

村田製作所	10,600	4,595	48,707,000
キヤノン	18,600	3,555	66,123,000
東京エレクトロン	11,500	4,060	46,690,000
トヨタ自動車	41,000	2,580	105,780,000
フタバ産業	54,000	591	31,914,000
本田技研工業	28,700	2,355	67,588,500
スズキ	18,500	1,682	31,117,000
トプコン	66,500	382	25,403,000
タカラトミー	58,000	578	33,524,000
リンテック	15,400	1,653	25,456,200
大阪瓦斯	101,000	309	31,209,000
東日本旅客鉄道	6,600	4,615	30,459,000
ヤマトホールディングス	45,300	1,408	63,782,400
上組	68,000	675	45,900,000
ドワンゴ	168	139,500	23,436,000
ヤフー	1,278	25,200	32,205,600
トレンドマイクロ	24,600	2,712	66,715,200
伊藤忠テクノソリューションズ	9,500	3,310	31,445,000
日本電信電話	17,500	3,825	66,937,500
エヌ・ティ・ティ・ドコモ	369	137,200	50,626,800
住友商事	48,400	959	46,415,600
三菱商事	29,300	1,527	44,741,100
ファミリーマート	15,300	3,110	47,583,000
ヤマダ電機	8,570	5,470	46,877,900
ファーストリテイリング	2,800	14,030	39,284,000
三菱UFJフィナンシャル・グループ	276,400	338	93,423,200
三井住友トラスト・ホールディングス	117,000	260	30,420,000
三井住友フィナンシャルグループ	28,600	2,164	61,890,400
野村ホールディングス	54,200	290	15,718,000
松井証券	138,600	363	50,311,800
東京海上ホールディングス	16,300	1,809	29,486,700
日立キャピタル	31,500	962	30,303,000
大阪証券取引所	155	370,000	57,350,000
三井不動産	48,000	1,317	63,216,000
三菱地所	46,000	1,340	61,640,000
ユー・エス・エス	8,310	6,570	54,596,700
合計	2,877,348		2,964,409,500

(b) 株式以外の有価証券
該当事項はありません。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

平成23年11月30日現在

資産総額 2,982,316,106 円
負債総額 19,587,770 円

純資産総額(-)	2,962,728,336 円
発行済口数	7,966,983,604 口
1口当たり純資産額(/)	0.3719 円
(1万口当たり純資産額	3,719 円)

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

<訂正前>

イ 資本金の額および株式数

	平成23年5月31日現在
資本金の額	2,000百万円
会社が発行する株式の総数	60,000株
発行済株式総数	17,640株

(略)

<訂正後>

イ 資本金の額および株式数

	平成23年11月30日現在
資本金の額	2,000百万円
会社が発行する株式の総数	60,000株
発行済株式総数	17,640株

(略)

2【事業の内容及び営業の概況】

<訂正前>

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務を行っています。

平成23年5月31日現在、委託会社が運用を行っている投資信託（親投資信託は除きます）は、以下の通りです。

（平成23年5月31日現在、単位：百万円）

		本数	純資産総額
株式投資信託	単位型	$\frac{57}{(1)}$	$\frac{94,125}{(188)}$
	追加型	$\frac{274}{(132)}$	$\frac{4,936,683}{(3,165,150)}$
	計	$\frac{331}{(133)}$	$\frac{5,030,808}{(3,165,338)}$
公社債投資信託	単位型	$\frac{0}{(0)}$	$\frac{0}{(0)}$
	追加型	$\frac{0}{(0)}$	$\frac{0}{(0)}$
	計	$\frac{0}{(0)}$	$\frac{0}{(0)}$
合計		$\frac{331}{(133)}$	$\frac{5,030,808}{(3,165,338)}$

（ ）内は、私募投資信託分であり、内書き表記しております。

<訂正後>

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務を行っています。

平成23年11月30日現在、委託会社が運用を行っている投資信託（親投資信託は除きます）は、以下の通りです。

（平成23年11月30日現在、単位：百万円）

		本数	純資産総額
株式投資信託	単位型	$\frac{44}{(1)}$	$\frac{52,549}{(165)}$
	追加型	$\frac{296}{(130)}$	$\frac{4,393,872}{(2,899,128)}$
	計	$\frac{340}{(131)}$	$\frac{4,446,421}{(2,899,293)}$
公社債投資信託	単位型	$\frac{0}{(0)}$	$\frac{0}{(0)}$
	追加型	$\frac{0}{(0)}$	$\frac{0}{(0)}$
	計	$\frac{0}{(0)}$	$\frac{0}{(0)}$
合計		$\frac{340}{(131)}$	$\frac{4,446,421}{(2,899,293)}$

（ ）内は、私募投資信託分であり、内書き表記しております。

3【委託会社等の経理状況】

<訂正前>

- 1 当社の財務諸表は、第25期（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）については、改正前の「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しており、第26期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）については、改正後の「財務諸表等規則」並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。
- 2 当社は、第25期（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、あずさ監査法人の監査を受けており、第26期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任 あずさ監査法人の監査を受けております。
なお、あずさ監査法人は、監査法人の種類の変更により平成22年7月1日付をもって、名称を有限責任 あずさ監査法人に変更しております。

<訂正後>

- 1 当社の財務諸表は、第25期（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）については、改正前の「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しており、第26期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）については、改正後の「財務諸表等規則」並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。
また、当社の中間財務諸表は、第27期中間会計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)については、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）並びに同規則第38条及び第57条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。
- 2 当社は、第25期（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、あずさ監査法人の監査を受けており、第26期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任 あずさ監査法人の監査を受けております。
また、第27期中間会計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)の中間財務諸表については、金融商品

取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任 あずさ監査法人の中間監査を受けております。

なお、あずさ監査法人は、監査法人の種類の変更により平成22年7月1日付をもって、名称を有限責任 あずさ監査法人に変更しております。

【追加】

原届出書「第三部 委託会社等の情報 第1 委託会社等の概況 3 委託会社等の経理状況」に下記の記載が「中間財務諸表」として追加されます。

中間財務諸表

(1)中間貸借対照表

(単位：千円)

		第27期中間会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金		15,908,684
有価証券		3,999,550
前払費用		273,540
未収委託者報酬		3,692,782
未収運用受託報酬		419,703
未収投資助言報酬		408,845
未収収益		16,131
繰延税金資産		216,398
その他		698
流動資産合計		24,936,334
固定資産		
有形固定資産	1	404,703
無形固定資産		149,325
投資その他の資産		
投資有価証券		5,686,023
その他		1,633,657
投資その他の資産合計		7,319,680
固定資産合計		7,873,709
資産合計		32,810,044
負債の部		
流動負債		
預り金		46,972
未払金		2,205,225

未払費用		834,591
未払法人税等		756,091
前受収益		8,761
賞与引当金		320,687
その他	2	80,148
流動負債合計		4,252,478
固定負債		
退職給付引当金		1,396,073
固定負債合計		1,396,073
負債合計		5,648,551

純資産の部	
株主資本	
資本金	2,000,000
資本剰余金	
資本準備金	8,628,984
資本剰余金合計	8,628,984
利益剰余金	
利益準備金	284,245
その他利益剰余金	
配当準備積立金	60,000
別途積立金	1,476,959
繰越利益剰余金	15,201,075
利益剰余金合計	17,022,279
株主資本合計	27,651,263
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	489,771
評価・換算差額等合計	489,771
純資産合計	27,161,492
負債純資産合計	32,810,044

(2)中間損益計算書

(単位：千円)

		第27期中間会計期間 (自 平成23年 4月 1日 至 平成23年 9月30日)	
営業収益			
委託者報酬			13,337,108
運用受託報酬			991,578
投資助言報酬			879,806
その他の営業収益			107,846
営業収益計			15,316,340
営業費用			9,774,282
一般管理費	1		3,826,719
営業利益			1,715,338
営業外収益	2		32,554
経常利益			1,747,893
特別利益	3		111,902
特別損失			29,977
税引前中間純利益			1,829,819
法人税、住民税及び事業税			744,821
法人税等調整額			12,881
法人税等合計			757,702
中間純利益			1,072,117

(3)中間株主資本等変動計算書

(単位：千円)

	第27期中間会計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
株主資本	
資本金	
当期首残高	2,000,000
当中間期末残高	2,000,000
資本剰余金	
資本準備金	
当期首残高	8,628,984
当中間期末残高	8,628,984
資本剰余金合計	
当期首残高	8,628,984
当中間期末残高	8,628,984
利益剰余金	
利益準備金	
当期首残高	284,245
当中間期末残高	284,245
その他利益剰余金	
配当準備積立金	
当期首残高	60,000
当中間期末残高	60,000
別途積立金	
当期首残高	1,476,959
当中間期末残高	1,476,959
繰越利益剰余金	
当期首残高	15,381,398
当中間期変動額	
剰余金の配当	1,252,440
中間純利益	1,072,117

当中間期変動額合計	180,322
当中間期末残高	15,201,075
利益剰余金合計	
当期首残高	17,202,602
当中間期変動額	
剰余金の配当	1,252,440
中間純利益	1,072,117
当中間期変動額合計	180,322
当中間期末残高	17,022,279
株主資本合計	
当期首残高	27,831,586
当中間期変動額	
剰余金の配当	1,252,440
中間純利益	1,072,117
当中間期変動額合計	180,322
当中間期末残高	27,651,263

評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	
当期首残高	110,498
当中間期変動額	
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	600,269
当中間期変動額合計	600,269
当中間期末残高	489,771
評価・換算差額等合計	
当期首残高	110,498
当中間期変動額	
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	600,269
当中間期変動額合計	600,269
当中間期末残高	489,771
純資産合計	
当期首残高	27,942,085
当中間期変動額	
剰余金の配当	1,252,440
中間純利益	1,072,117
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	600,269
当中間期変動額合計	780,592
当中間期末残高	27,161,492

重要な会計方針

第27期中間会計期間

(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

- ・満期保有目的の債券...償却原価法
- ・子会社株式及び関連会社株式...移動平均法による原価法
- ・其他有価証券

時価のあるもの...中間会計期間末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの...移動平均法による原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法によっております。但し、建物(建物附属設備を除く)については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～50年

器具備品 3～20年

(2) 無形固定資産

定額法によっております。

なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当中間会計期間の負担額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当中間会計期間において発生していると認められる額を計上しております。

過去勤務債務については、発生時において全額を費用処理しております。

数理計算上の差異については、発生時において全額を費用処理しております。

4．その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

追加情報

第27期中間会計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
<p>会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準</p> <p>当中間会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正から、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。</p>

注 記 事 項

(中間貸借対照表関係)

第27期中間会計期間 (平成23年9月30日)						
<p>1. 有形固定資産の減価償却累計額</p> <p style="text-align: right;">812,990千円</p>						
<p>2. 消費税等の取扱い</p> <p>仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、金額的重要性が乏しいため、流動負債のその他に含めて表示しております。</p>						
<p>3. 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行1行と当座借越契約を締結しております。</p> <p>当中間会計期間末における当座借越契約に係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">当座借越極度額の総額</td> <td style="text-align: right;">10,000,000千円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">10,000,000千円</td> </tr> </table>	当座借越極度額の総額	10,000,000千円	借入実行残高	-	差引額	10,000,000千円
当座借越極度額の総額	10,000,000千円					
借入実行残高	-					
差引額	10,000,000千円					
<p>4. 当社は、子会社であるSumitomo Mitsui Asset Management(New York)Inc.における賃貸借契約に係る賃借料に対し、平成27年6月までの賃借料総額60,830千円の支払保証を行っております。</p>						

(中間損益計算書関係)

第27期中間会計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)				
<p>1. 減価償却実施額</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%;">有形固定資産</td> <td style="text-align: right;">66,377千円</td> </tr> <tr> <td>無形固定資産</td> <td style="text-align: right;">4,380千円</td> </tr> </table>	有形固定資産	66,377千円	無形固定資産	4,380千円
有形固定資産	66,377千円			
無形固定資産	4,380千円			
<p>2. 営業外収益のうち主要なもの</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%;">受取利息</td> <td style="text-align: right;">3,030千円</td> </tr> </table>	受取利息	3,030千円		
受取利息	3,030千円			

受取配当金	17,068千円
為替差益	6,222千円
3. 特別利益のうち主要なもの	
受取和解金	108,451千円

（中間株主資本等変動計算書関係）

第27期中間会計期間 （自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日）					
1. 発行済株式数に関する事項					
	当事業年度 期首株式数	当中間会計期 間 増加株式数	当中間会計期間 減少株式数	当中間会計期間 末株式数	
普通株式	17,640株	-	-	17,640株	
2. 配当に関する事項					
（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	一株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	1,252,440	71,000	平成23年 3月31日	平成23年 6月27日

（リース取引関係）

第27期中間会計期間 （自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日）	
1. オペレーティング・リース取引 （借主側）	
未経過リース料（解約不能のもの）	
1年以内	672,143千円
1年超	621,833千円
合 計	1,293,976千円

（金融商品関係）

1．金融商品の時価等に関する事項

平成23年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（（注2）参照）。

（単位：千円）

第27期中間会計期間 （平成23年9月30日）			
区分	中間貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	15,908,684	15,908,684	-
(2) 未収委託者報酬	3,692,782	3,692,782	-
(3) 未収運用受託報酬	419,703	419,703	-
(4) 未収投資助言報酬	408,845	408,845	-
(5) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	3,999,550	3,999,200	350
その他有価証券	5,637,282	5,637,282	-
(6) 投資その他の資産			
長期差入保証金	680,723	680,723	-
資産計	30,747,572	30,747,222	350
(1) 未払金			
未払手数料	2,068,789	2,068,789	-
負債計	2,068,789	2,068,789	-

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

（1）現金及び預金、（2）未収委託者報酬、（3）未収運用受託報酬 及び（4）未収投資助言報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

（5）有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、債券については取引金融機関から提示された価格及び業界団体が公表する売買参考統計値等によって、投資信託等については取引所の価格、取引金融機関から提示された価格及び公表されている基準価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

（6）投資その他の資産

長期差入保証金

これらの時価については、敷金の性質及び賃貸借契約の期間から帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

負債

(1) 未払金

未払手数料

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：千円）

第27期中間会計期間 （平成23年9月30日）	
内容	中間貸借対照表計上額
(1) 子会社株式	234,921
合計	234,921
(2) その他有価証券	
非上場株式	298
投資証券	48,443
合計	48,741

その他有価証券については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであり、

「(5) その他有価証券」には含めておりません。

子会社株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであることから、時価開示の対象とはしておりません。

（有価証券関係）

1．満期保有目的の債券

（単位：千円）

第27期中間会計期間 （平成23年9月30日）			
区分	中間貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 中間貸借対照表日の時価が中間 貸借対照表計上額を超えるもの	-	-	-
小計	-	-	-
(2) 中間貸借対照表日の時価が中間 貸借対照表計上額を超えないもの	3,999,550	3,999,200	350
小計	3,999,550	3,999,200	350
合計	3,999,550	3,999,200	350

2．子会社株式及び関連会社株式

第27期中間会計期間

(平成23年9月30日)

子会社株式及び関連会社株式(中間貸借対照表計上額 234,921千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

3. その他有価証券

(単位：千円)

第27期中間会計期間 (平成23年9月30日)			
区分	中間貸借対照表 計上額	取得原価	差額
(1)中間貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの 投資信託等	96,513	90,990	5,523
小計	96,513	90,990	5,523
(2)中間貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの 投資信託等	5,540,768	6,036,063	495,294
小計	5,540,768	6,036,063	495,294
合計	5,637,282	6,127,053	489,771

(注) 非上場株式等(中間貸借対照表計上額 48,741千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。また、上記の表中にある「中間貸借対照表計上額」は、減損処理後の帳簿価額です。当中間会計期間における減損処理額は301千円です。

(デリバティブ取引関係)

第27期中間会計期間 (自平成23年4月1日至平成23年9月30日)
当社は、デリバティブ取引を行っておりませんので、該当事項はありません。

(持分法損益等)

第27期中間会計期間 (自平成23年4月1日至平成23年9月30日)
該当事項はありません。

(資産除去債務等)

第27期中間会計期間 (自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

第27期中間会計期間

(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

(セグメント情報)

当社は、投資運用業及び投資助言業などの金融商品取引業を中心とする営業活動を展開しております。これらの営業活動は、金融その他の役務提供を伴っており、この役務提供と一体となった営業活動を基に収益を得ております。

従って、当社の事業区分は、「投資・金融サービス業」という単一の事業セグメントに属しており、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

(関連情報)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	委託者報酬	運用受託報酬	投資助言報酬	その他	合計
外部顧客への売上高	13,337,108	991,578	879,806	107,846	15,316,340

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高に区分した金額が中間損益計算書の売上高の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、中間損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

(1株当たり情報)

第27期中間会計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	
1株当たり純資産額	1,539,767円16銭
1株当たり中間純利益	60,777円60銭
<p>なお、潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。</p>	
(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎	
中間貸借対照表の純資産の部の合計額	27,161,492千円
普通株式に係る純資産額	27,161,492千円
普通株式の発行済株式数	17,640株
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数	17,640株
1株当たり中間純利益の算定上の基礎	
中間損益計算書上の中間純利益	1,072,117千円
普通株式に係る中間純利益	1,072,117千円
普通株主に帰属しない金額の主要な内訳	
該当事項はありません。	
普通株式の期中平均株式数	17,640株

(重要な後発事象)

第27期中間会計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	
該当事項はありません。	

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

<訂正前>

イ 受託会社

(イ) 名称 三菱UFJ信託銀行株式会社

(ロ) 資本金の額 324,279百万円（平成23年3月末現在）

(ハ) 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

【参考情報：再信託受託会社の概要】

・ 名称 日本マスタートラスト信託銀行株式会社

・ 資本金の額 10,000百万円（平成23年3月末現在）

・ 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

ロ 販売会社

(イ) 名称	(ロ) 資本金の額	(ハ) 事業の内容
S M B Cフレンド証券株式会社	27,270百万円	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
株式会社S B I証券	47,937百万円	
カブドットコム証券株式会社	7,196百万円	
極東証券株式会社	5,251百万円	
大和証券キャピタル・マーケット株式会社	255,700百万円	
東洋証券株式会社	13,494百万円	
野村證券株式会社	10,000百万円	
マネックス証券株式会社	7,425百万円	
丸三証券株式会社	10,000百万円	
楽天証券株式会社	7,495百万円	
株式会社北都銀行	11,000百万円	
株式会社三井住友銀行	1,770,996百万円	
株式会社みなと銀行	27,484百万円	
株式会社宮崎太陽銀行	12,252百万円	
三井住友海上火災保険株式会社	139,595百万円	保険業法に基づき損害保険業務を営んでいます。

資本金の額は、平成23年3月末現在。

<訂正後>

イ 受託会社

(イ) 名称 三菱UFJ信託銀行株式会社

(ロ) 資本金の額 324,279百万円（平成23年9月末現在）

(ハ) 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

【参考情報：再信託受託会社の概要】

・ 名称 日本マスタートラスト信託銀行株式会社

・ 資本金の額 10,000百万円（平成23年9月末現在）

・ 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

ロ 販売会社

(イ) 名称	(ロ) 資本金の額	(ハ) 事業の内容
S M B Cフレンド証券株式会社	27,270百万円	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
株式会社S B I証券	47,937百万円	
カブドットコム証券株式会社	7,196百万円	
極東証券株式会社	5,251百万円	
東洋証券株式会社	13,494百万円	
野村証券株式会社	10,000百万円	
マネックス証券株式会社	7,425百万円	
丸三証券株式会社	10,000百万円	
楽天証券株式会社	7,495百万円	
株式会社北都銀行	11,000百万円	
株式会社三井住友銀行	1,770,996百万円	
株式会社みなと銀行	27,484百万円	
株式会社宮崎太陽銀行	12,252百万円	
三井住友海上火災保険株式会社	139,595百万円	保険業法に基づき損害保険業務を営んでいます。

資本金の額は、平成23年9月末現在。

独立監査人の監査報告書

平成23年12月20日

三井住友アセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員

業務執行社員

公認会計士 鈴木 敏夫 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・株式アナライザー・オープンの平成23年4月23日から平成23年10月24日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友・株式アナライザー・オープンの平成23年10月24日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

三井住友アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

[委託会社の中間監査報告書へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

平成23年12月15日

三井住友アセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木 敏夫 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 辰巳 幸久 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三井住友アセットマネジメント株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第27期事業年度の中間会計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三井住友アセットマネジメント株式会社の平成23年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

上記は、当社が、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。